


# 高萩出身・赤水の図 教科書に

## 江戸時代普及の日本地図


### 伊能図と共に掲載

現在の高萩市赤浜で生まれた江戸時代の地理学者・長久保赤水(1717〜1801年)の日本地図「改正日本輿地路程全図」が、今年度初めて中学校の教科書に採用された。伊能忠敬の測量図(伊能図)より約40年早く作られ、江戸の庶民に普及したと紹介している。

赤水図を取り上げたの(帝国書院)。赤水図と伊能図を並べて載せ、赤水図



「中学校社会科地図」に伊能図(右下)と並んで掲載された赤水図(左下)

 改正日本輿地路程全図 日本で初めて経線と緯線を記した地図。旅人などから得た膨大な情報を編集し、1779年に完成させた。地名などの情報が豊富に書き込まれているのが特徴。関係資料は昨年、国の重要文化財に指定された。

について「伊能図より約40年早くつくられました。伊能図は幕府が一般に公開しなかったため、一般の人はこの地図を頼りにしました」と記している。

高萩市の市立中学校では、この地図帳を使って授業が行われている。



原寸大のレプリカを使った授業で赤水図を学ぶ生徒たち

松岡中では4月15日、1年生が赤水の功績を学んだ。渡辺浩実教諭は赤水図の原寸大レプリカを掲げ、「多くの人たちが赤水さんの地図を持って実際に各地を歩いた」と説明。「郷土の偉人が日本の歴史の中で価値を見いだされている。すごく誇らしいことだと思う」と生徒に語りかけた。

授業を受けた菊地然君(12)は「よくあんな地図が描けたと思う。高萩の人が教科書に載ってすごいのはひと言」と話していた。